

令和4年度及び第3期中期目標期間（平成29～令和4年度） 公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果を公表します

横浜市公立大学法人評価委員会では、地方独立行政法人法に基づき、公立大学法人横浜市立大学の毎年度の業務実績及び中期目標期間に対する評価を行っており、その評価結果は、市長への報告と公表が法令で定められています。

このたび、「令和4年度及び第3期中期目標期間 公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果」を取りまとめましたので公表します。

評価は、法人から提出のあった業務実績報告書等に基づき、評価委員会が書面審査及びヒアリングを実施し、項目ごとに次の基準で総合的に行いました。

【評価基準】

- S：目標（計画）を上回って達成、または達成の難易度が高い計画を順調に達成している
- A：目標（計画）を順調に達成している
- B：目標（計画）を十分には達成できていない
- C：目標（計画）をほとんど達成していない

1 令和4年度の業務の実績に関する評価の概要

項目	主な内容（○：特に評価できる点 ●：今後期待する点など）
総括的な評価	令和4年度は、コロナ禍に加え、国際及び社会情勢の変化、AI など情報技術の急激な進展等の変化が法人経営に大きな影響を与えた1年であったが、先が見通せない中であっても第3期中期計画期間の最終年度として第3期中期目標の達成に向けて、教育・研究・医療の充実に着実に取り組んだと認められる。
Ⅰ 大学の教育 研究等の 質の向上	【評価：A】 1 教育に関する取組 《評価：A》 ○全学的なデータサイエンス教育の推進に向けたカリキュラムの充実に努め、様々な施策がとられている。 ○ラーニングマネジメントシステム運用開始や、アクティブラーニングの導入率向上等、教育の質の向上に取り組み、学生満足度は85.8%と非常に高い。
	2 研究の推進に関する取組 《評価：A》 ○市大が代表機関となる産学連携事業が国の支援事業に採択されたことは、研究支援体制の強化の結果と考える。 ○主要学術雑誌等への掲載論文数、科学研究費補助金採択件数並びに共同受託研究数も目標を上回り高く評価できる。
Ⅱ 地域貢献	【評価：A】 ○地域志向科目の充実やボランティア支援室の活動により、ボランティア派遣数が大きく拡大したことは特筆に値する。 ●みなとみらいサテライトキャンパスは、その立地から、産学連携など様々な活用の可能性が考えられることから、より一層の取組の進展を期待したい。

<p>Ⅲ 国際化</p>	<p>【評価：A】</p> <p>○第2クォータープログラム構築等、海外留学を着実に軌道にのせたことは評価。</p> <p>●産業界における人材獲得競争が高まると考える中、海外からの留学生就職促進プログラムの今後の期待される。</p>
<p>Ⅳ 附属2病院</p>	<p>【評価：A】</p> <p>1 医療分野・医療提供等に関する取組 《評価：S》</p> <p>○コロナ禍においても、遠隔ICU「支援センター」の24時間365日体制開始等、医療体制づくりも前進させている。</p> <p>○がんゲノム医療拠点病院の指定申請（附属病院）を行う等の取組を高く評価。</p> <p>2 医療人材の育成等に関する取組 《評価：A》</p> <p>○優秀な初期臨床研修医の確保と育成のためプログラムの充実に努めている。</p> <p>●医師の働き方改革の実施に向け、労働時間短縮の推進、チーム医療の推進など、引き続き取り組む必要がある。</p> <p>3 地域医療に関する取組 《評価：A》</p> <p>○ウェブ初診予約の拡充や転院調整システムの利用拡大など、地域医療の推進にオンラインを積極的に活用している。</p> <p>○地域の医療機関従事者向けの研修会、市民向けの医療講座などを実施し、地域医療の質の向上に成果を挙げている。</p> <p>4 先進的医療・研究に関する取組 《評価：B》</p> <p>○新規治験件数は安定しており、臨床研究や治験の増加に努力している。</p> <p>●特定臨床研究件数は目標未達となっており、今後の奮起を期待したい。</p> <p>5 医療安全・病院経営に関する取組 《評価：A》</p> <p>○医療安全の研修受講率100%を維持するほか、クリニカルパスの使用率向上等、患者サービスの向上が図られている。</p> <p>○データ分析による経営に取り組み、患者の平均在院日数が短縮するなど、経営の改善・効率化が図られている。</p>
<p>Ⅴ 法人の経営</p>	<p>【評価：A】</p> <p>1 業務運営の改善に関する取組 《評価：A》</p> <p>○適正な組織運営を確保するため、コンプライアンス推進専任部署や、ダイバーシティ推進室を速やかに設置したことを評価。</p> <p>●大学の知名度を上げるため、広報も含めた新たな戦略が必要。</p> <p>2 財務内容の改善に関する取組 《評価：A》</p> <p>○産学連携や文科省の補助金等の外部資金の獲得、寄附金獲得への体制強化、事務改善による経費削減に努めている。</p> <p>●大学部門では光熱水費高騰等により法人化初の赤字となったため、今後一層のコスト削減や収入増の取組を進める必要がある。</p>
<p>Ⅵ 自己点検及び評価</p>	<p>【評価：A】</p> <p>○自己点検、評価を適切に実施し、評価委員会等の指摘事項等を踏まえ、第4期中期計画の策定を行った。</p>

2 第3期中期目標期間（平成29～令和4年度）における業務の実績に関する評価の概要

項目	主な内容（○：特に評価できる点 ●：今後期待する点など）
総括的な評価	第3期中期目標期間は、超高齢社会の到来、グローバル化の更なる進展、新型コロナウイルス感染症の拡大等、目まぐるしい変化の6年間であった。この中にあっても、全教職員が一丸となり、教育、研究、医療等の各分野について、スピード感と改革・改善の意識を持って取組を進めてきたと認められる。
I 大学の教育 研究等の 質の向上	【評価：A】 1 教育に関する取組 《評価：S》 ○データサイエンス学部の新設、学部再編、みなとみらいサテライトキャンパス開設等、未来志向の施策を次々と実施してきた。 ○特にデジタル人材の育成に関し、全学教育プログラムや社会人教育など、幅広く展開し全学的な特色・強みとしている。
	2 研究の推進に関する取組 《評価：A》 ○知財専門職の配置、研究・産学連携推進センターの設置等により、産学官連携による研究事業や大学発ベンチャーの創出、他大学との共同研究等、大きな成果を示したことを評価。
	【評価：A】 ○地域実践研究も着実に伸びており、市とも様々な連携をしていることを評価。 ○みなとみらいに開設されたサテライトキャンパスは、社会との結節点や協働の場として今後の活用に期待。
II 地域貢献	【評価：A】 ○コロナ禍の影響を受ける中、海外からの留学生比率が目標を下回ったことは残念であるが、交換留学先や海外協定校の増加によって、4年度に渡航した学生が100名を超えたことは大いに評価。
III 国際化	【評価：A】 ○コロナ禍の影響を受ける中、海外からの留学生比率が目標を下回ったことは残念であるが、交換留学先や海外協定校の増加によって、4年度に渡航した学生が100名を超えたことは大いに評価。
IV 附属2病院	【評価：A】 1 医療分野・医療提供等に関する取組 《評価：S》 ○コロナ禍の対応について大学病院としての役割を果たす一方、一般診療との両立の努力をしてきたことを高く評価。 ○「がんゲノム医療連携病院」「がんゲノム医療拠点病院」の指定を高く評価。
	2 医療人材の育成等に関する取組 《評価：A》 ○地域医療を支える医師の確保育成に向けた初期臨床研修医の積極的採用、魅力あるプログラムの提供等を評価。 ●働き方改革や、タスクシフト/シェア等の取組の今後一層の推進を期待。
	3 地域医療に関する取組 《評価：A》 ○病病連携、病診連携等に積極的に取り組み、地域包括ケアの診療体制の整備にリーダーシップを発揮した。コロナ禍の混乱の中でも着実に目標を達成しており、さらに病院間のネットワーク・連携が進展することを期待。
	4 先進的医療・研究に関する取組 《評価：B》 ○トランスレーショナルリサーチ推進の体制整備が図られたことを評価。 ●臨床研究中核病院の承認要件を維持できず、一旦申請を取り下げざるを得ない状況に至ったことは残念だが、承認に向けた今後の取組を期待。
	5 医療安全・病院経営に関する取組 《評価：S》 ○コロナ禍の過酷な状況下、患者相談体制の充実や病床の効率的運用の推進等に取り組んだことは特筆すべき点。病院の職員一人ひとりが高い目的意識を持ち続け、地域医療のために責務を全うしたことに敬意を表する。 ○臨床倫理コンサルテーションチームの立ち上げや、医療安全講演会の高い出席率の維持等に努めている。

V 法人の経営	【評価：A】 1 業務運営の改善に関する取組 《評価：B》 ○コロナ禍の中、SNSの活用、テレワークの導入、ダイバーシティ推進体制の構築に取り組んだことを評価。 ●個人情報の取扱への意識醸成等、コンプライアンスの取組の一層の推進が望まれる。 ●ブランドランキング等では目標数値に届いておらず、大学ブランドイメージを上げるための広報等を期待。
	2 財務内容の改善に関する取組 《評価：A》 ○財政の自由度が低い中で、外部資金の獲得、病院経営の改善など様々な努力により、物価高騰という環境でも財務内容が良好に保たれたことを高く評価。 ○ファンドレイザーの雇用により、これまでにない外部資金獲得成果を収めた。
VI 自己点検及び評価	【評価：A】 ○第3期中期目標期間の最終年度として、第4期への接続を考慮しながら厳密な進捗管理を行っていることを評価。

※ 詳細な評価結果については、次のURLから横浜市ホームページの公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果を参照してください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/daigaku/daigaku-hyoka/houjinhyouka.html>

また、横浜市立大学から提出された実績報告は、次のURLから、横浜市立大学ホームページの実績報告書を参照してください。

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/univ/corp/plan/index.html>

【参考】横浜市公立大学法人評価委員会の概要

- 1 設置の目的
法人の業務の実績に関する評価等を行うため、平成16年12月に評価委員会を設置
- 2 横浜市公立大学法人評価委員会委員（任期：令和5年2月27日～令和7年2月26日）

委員長	板東 久美子	元文部科学審議官
委員	今市 涼子	学校法人日本女子大学理事長
	大久保 千行	元横浜商工会議所副会頭
	大塚 篤	公認会計士
	山本 修一	独立行政法人地域医療機能推進機構理事長

（委員は50音順）

- 3 委員会開催実績（令和4年度以降）
令和4年度：5月18日、7月1日、8月1日、8月19日、10月31日、2月27日（計6回開催）
令和5年度：4月11日、7月4日、8月18日（計3回開催）

お問合せ先
横浜市公立大学法人評価委員会事務局（横浜市政策局大学調整課） 横浜市政策局大学調整課長 澤田 賢一 Tel 045-671-4271